

# 北海学園大学の地域連携事業

## 「北海道の知の拠点」として地域の現場と連携・協働

北海学園大学  
学報

北海学園大学学報  
発行・編集 北海学園大学  
札幌市豊平区旭町4丁目  
1番40号 〒062-8605  
☎ 011(84)1161 FAX 011(824)3141  
https://www.hgu.jp/  
✉ gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp  
発行日(6月1日, 9月1日, 12月1日, 3月15日)  
購読料 1部80円 年間320円  
制作・印刷 株式会社社人力社



北海学園大学  
学報  
バックナンバー

### 主な記事

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 北海学園大学学報                           | 2面 |
| 工学部社会環境工学科 北海道川村財団寄附講座「環境防災工学研究」対談 | 3面 |
| 2023年度第1回市民公開講座                    | 4面 |
| 研究室を訪ねて⑫ 人文学部 森川慎也教授               | 5面 |
| 新研究科長に聞く!                          | 6面 |
| 学園人脈記第24回 野夢みり古ミナミ 札幌市 木田靖代氏       | 7面 |
| OPEN CAMPUS 2023                   | 8面 |

## 包括連携協定締結

(二社)天売島おらが島活性化会議と本学

開発研究部長  
経済学部教授  
濱田 武士



天売島おらが島  
活性化会議の活動

6月30日に一般社団法人・天売島おらが島活性化会議(以下、おらが島会議)と本学が包括連携協定を締結しました。おらが島会議は、島に住む異業種の有志が集ま

## 包括連携協定締結式



(一社)天売島おらが島活性化会議との包括連携協定締結式  
齊藤暢代表理事(左)と森下宏美学長

り、天売島の魅力発信と子供たちが住み続けたいと思ふ環境づくりに取り組む」を目的とした天売島で活動する地域づくり団体です。設立は2014年です。天売島は、日本海(留萌管内羽幌町市街地の沖合30キロメートル)に浮かぶ周囲12kmの小さな島です。離島ですから基盤産業は漁業です。漁業の盛衰が人口に影響します。食糧難だった戦後のピーク時には人口は2260人にも達していたのですが、今年の5月末時点では269人となっています。隣にある焼尻島も人口減少が著しく163人となっています。人口減少に苦むのは全国の離島も同じです。昨今では残って漁業に就業したり、島に戻って結婚したりする卒業生もいるそうです。島においては若年層の移住はたとえ短期間であっても地域に元気を与えます。中には残って漁業に就業したり、島に戻って結婚したりする卒業生もいるそうです。島の観光や交流事業に汗をかく、おらが島会議ですが、その活動は、徐々に注目されるようになり、2016年には「あしたのまち・くらしづくり活動賞(あしたの日本を創る協会)」、2017年には「地域げんき大賞(北海道新聞社)」、2018年には第8回地域再生大賞・最優秀賞(地域再生大賞実行委員会)」と3年連続で栄

## 地域づくりは小さな取り組みの積み重ね

善を与えられました。

フィールドワークで  
学生がイベントを企画

こうした「おらが島会議」と北海学園大学との関係が始まったのは、2016年のことでした。経済学部のフィールド演習(地域協働フィールドワーク)を受け入れてもらってからです。両者を結び付けてくれたのは、本学経済学部OBで、NPO法人北海道エンブリッジの代表理事・浜中裕之さんでした。浜中さんは会社・社会と大学生をつなげ協働を促すビジネスをはじめた起業家です。協働を促す企画ですから、一度訪問して



参加学生とサポートした島民・教員



7月に学生が開催した飲食交流イベント

終わるような演習ではありませんが、地元の方々と一緒に地域活性の実践をしながら地域づくりを学ぶというものです。これまで、このフィールド演習において参加学生は天売島の地域の運営を学ぶながら天売島のフェリターミナルそばにある観光売店の空店舗を交流拠点とし、イベント等を企画立案し、実践してきました。おらが島会議からは、学生受け入れに関わる環境・条件整備、準備及び滞在中における学生生活のサポート、学生生活の宿泊先の提供などについての支援を受けてきました。2020年からはコロナ

## 危機迫る地域の課題を知り、それに応える使命

さて、本学は2021年9月にミッション・ビジョンを明確にしました。その中に「北海道の知の拠点」・「地域連携推進機構を核とした北海道庁・道内市町村・民間企業および他大学との連携・同窓生との連帯の下に、少子高齢化・人口減少をはじめとする地域の直面する

課題に応えようと謳っています。

我々自身は、地域づくりの実践者ではありません。しかし、危機迫る地域の課題を知り、それに応えていくことをミッションとしています。そのためには、地域づくりの実践者たちとの連携や協働が欠かせません。連携や協働を積み重ねること、そして、地域づくりのための「知」が醸成しないからです。

今回の「おらが島会議」の取り組みは、小さな島での小さな取り組みかもしれませんが、過疎の問題のひとつは現場でみればどれも小さな現象なのです。そうした小さな現象を看過しては、ミッションで描かれた「北海道の知の拠点」にはなり得ないのです。

## 野生性と人類の論理

ポストドメスティケーションを捉える4つの思考  
卯田宗平 編/須田一弘 副学長 他共著  
東京大学出版会

## アイヌ文化史辞典

関根達人・菊池勇夫・手塚薫(人文学部教授)・北原モコトウナシ 編  
アイヌ民族の歴史・文化・社会を、初の総合辞典。ひともの・こともの3部構成で、歴史・物質文化・言語・口承文化・儀礼の精文化など約1000項目を掲載。平易に解説。  
文化史辞典  
定価 一五、四〇〇円(税込)  
吉川弘文館

## メディア・アカウンタビリティとプレス評議会

日本では社会的責任に合ったメディア・アカウンタビリティが未熟である。欧米を例に多面的な比較を行い、そこから得た知見に基づき「日本版プレス評議会」創設を提議する試み。  
定価 七、一六〇円(税込)  
日本評論社

## 世界の基地問題と沖縄

川名晋史 編/高橋美野梨(法学部准教授) 他共著  
沖縄に基地があるのは宿命ではない。「歴史」の縦軸と「海外」との比較の横軸から現実を捉え、なほ、基地問題の解決策を提議。朝日新聞 6月17日「Chai」にも紹介された。  
定価 二、七五〇円(税込)  
明石書店

## 首都の議会

近代移行期東京の政治秩序と都市改造  
池田真歩(法学部准教授) 著  
定価 七、七〇〇円(税込)  
東京大学出版会

## ドラッカー研究

―思索の展開と焦点―  
春日賢(経営学部教授) 著  
定価 三、九六〇円(税込)  
文真堂

## 森林政策と自治・分権

「連携」と人材の視点から  
日本都市センター 編/早尻正宏(経済学部教授) 他共著  
本書は、国の森林政策の問題点と市町村への影響・持続可能な森林経営に資する各種施策や人材育成など、都市自治体の森林政策に関する研究の一の成果を取りまとめたものである。  
定価 一、六五〇円(税込)  
日本都市センター







工学部社会環境工学科「北海道河川財団寄附講座 環境防災水工学研究室」対談

# 地球規模の気候変動に適応した新たな学問体系の確立へ

## 寄附講座で新しい土木技術を研究—iRICソフトウェアの可能性



**清水 康行** (前列右)  
1980年北海道大学工学部土木工学科卒業、同年北海道開発局入局。1994年北海道大学工学部(工学研究科)助教授、2005年同大学大学院工学研究科教授。工学博士(北海道大学)。2023年3月北海道大学定年退職、同年4月北海道大学名誉教授、北海学園大学特任教授。専門は河川工学。

**嵯峨 浩** (前列左)  
1981年北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了。1991年工学博士(北海道大学)。1991年本学工学部助教授、1995年教授。2022年3月退職。同年北海学園大学名誉教授。専門は水文学。

**鈴木 洋之** (後列右)  
2001年北海道大学大学院工学研究科環境資源工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)(北海道大学)。2022年4月本学工学部教授。専門は水理学・水文学。

**田代 隆志** (後列左)  
1993年本学工学部土木工学科卒業。同年北海道開発局入局。現在は建設部河川計画課河川調整推進官。技術士(建設部門)。

今年4月、工学部社会環境工学科に北海道河川財団寄附講座「環境防災水工学研究室」が設置され、北海道大学で教授を務めていた清水康行先生(専門は河川工学)が特任教授として着任した。この寄附講座は研究を目的としたもので、本学科の山田俊郎教授と鈴木洋之教授が運営協力を行っている。清水特任教授、水文学が専門の嵯峨浩名誉教授、鈴木教授、本学OBで技術士の北海道開発局・田代隆志氏に、北海道の河川の現状と課題、河川防災について話してもらった。

**地球温暖化で  
道内でも災害が多発**

画立案に携わってきました。現在は、気候変動を踏まえて、河川計画の見直し作業を行っています。

**鈴木** 清水先生と田代さんに簡単な自己紹介をお願いします。

**清水** 私は1980年に北海道大学工学部土木工学科を卒業し、北海道開発局(現在の国土交通省)に入ってから河川河川事務所(技術者として約5年勤務しました。その後、札幌の土木試験所(現在の寒地土木研究所)に転勤になり、そこで研究を始めて、1994年に北海道大学に入りました。専門は河川工学で、特に流れと流砂のシミュレーションの開発・研究を行っています。

**田代** 私は平成5年に本学土木工学科を卒業して、開発局に入局しました。今年勤続30年になります。主にダム

の建設現場や管理、河川の計

画立案に携わってきました。現在は、気候変動を踏まえて、河川計画の見直し作業を行っています。

**鈴木** 嵯峨先生は長年本学社会環境工学科で教育・研究に携わってこられたと思いますが、改めて専門である水文学について説明いただけますか。

**嵯峨** UNESCOでは「水文学は、地球上の水のあらゆる循環をつかさどる学問」と定義されています。治水のこの考えればあまりに範囲が広いので、降雨・流出現象のメカニズムを解明する学問と考えるのもいいでしょう。洪水災害の防災・減災を行うには、水文統計(水文データ頻度解析・X年確率)、基本高水・計画高水(ピークカット)の検討を経て、治水規模の流量を決定し、具体的な治水対策が行われます。明確なライン引きはできませんが、この辺

あたりまでが水文学の縄張りです。大きな河川計画の前半の入口部分となります。これ以降が清水先生の専門分野の河川工学となり、様々な検討や実証実験などを加味して、田代氏が所属している行政により河川計画が実施されます。

**田代** 行政では、河川の調査から計画まで全てに関わりま

す。この川にはどれくらいの雨が降り、その流量はどのくらいか、水文学をもとに算定し、どういった工事が必要か、これくらいの規模の堤防か、足りなければダムかというように、全体のプランニングをするのが行政の仕事です。

**鈴木** IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の第6次評価報告書が公表されたばかりですが、温暖化について毎回表現が厳しいものと

**清水** 北海道は明治になってから国策として本州などから入植させてきました。石狩川は元々曲がりくねった川で氾濫しやすい、流域は湿地みたいなところで、一生涯命育てた農作物が秋の大きな台

風でたびたび水害に襲われま

す。そこで、政府から命を受けた北大一期生の岡崎文吉が、明治31年石狩川大水害時の調査を踏まえた石狩川最初の治水計画をまとめました。岡崎が提唱した計画流量は採用されましたが自然工法(川本来の機能を生かした工法)は採用されず、人工的なショートカット工法が採用されました。その後、河川

だけでなく農地の暗渠排水などいろいろな工事をやって、石狩川流域は穀倉地になったわけです。しかし今は、集中豪雨で山ごと崩れて土石流が発生したり、瞬間的に人の命を奪うような災害が札幌でも起こりうるし、地球温暖化で日本全体が熱帯になってきて、科学をやり直さなければならぬ状況です。

**時代とともに  
変化する防災対策**

**田代** そのような現象を解明し、住民の生活や地域の農業

など産業を守るためにしっかりと対応していくことが河川行政の仕事です。従来の河川計画では堤防やダムをつくることで氾濫を防いできましたが、水害対策もどんどん変化しています。河川にも限度があるのです。守り切れない部分をどうするか、例えば千歳川では特定都市河川に指定して、川に水が入ってこないように地域で水を貯めるとか、それでも抑えきれないときは被害のな

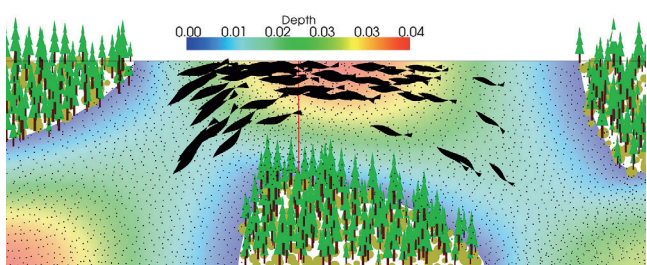
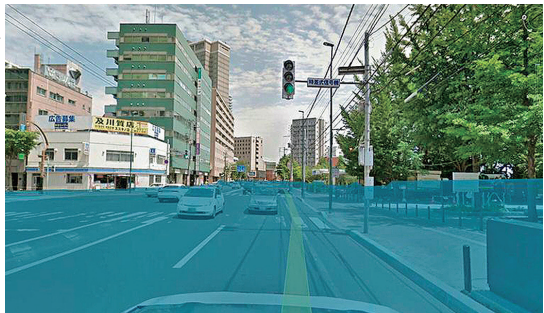
いところで氾濫させるとか、流域全体で対策をしないといけない流域治水を進めています。そこで重要なのは、住民が自分事として考えられるかです。そうしないと水害に対して立ち向かっていきません。

**清水** これまでの学問を踏まえて、地球全体が変化してきたという前提での研究や学問体系が今、求められています。

**鈴木** 世界の人とつながり進化し続けるiRIC

**清水** iRICは、水工学に関する数値シミュレーションのソフトウェアで、だれでも無料で利用することが出来ます。河川の流れ・河床変動解析ソフトウェアとして開発研究を進めてきて、どんどん機能が拡張され、現在は、氾濫や流出、津波、土石流もシミュレーションができます。石巻の津波のときの実際の画像をもとに下流端から津波が広がっている様子や、厚真の

北海道河川財団寄附講座「環境防災水工学研究室」のホームページ



地震のときの土石流と斜面崩壊、また、川の中の水や砂州を超えて泳いでくる魚のシミュレーションもできます。iRICは環境対策にも、防災河川管理、学校教育などにも使つていただけます。

**嵯峨** iRICの大きな利点は2つ。一つは画面が動くという点。もう一つは住民の意識、啓蒙です。洪水のときのテレビ画像は、ゴムボートで住民を救助しているところや、ここまで水がきましたという静的な画像です。洪水で一番恐ろしいのは、水の流れ(速さ)が持っているエネルギーであり、「破壊」の多くはこの水の流れによつてたられます。iRICはそれを見せ方ひとつと感じがします。高校生に対してもPRになるのではないのでしょうか。

**清水** 学部生にはワクワクするような研究を見せて、大学院にいったら新しい世界があることを示していきたいと思っています。できればiRICの後継者を育てたいですね。





## HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY







## 新 研究科長に聞く！

今年度新しく就任した大学院経営学研究科長・石嶋芳臣教授と文学研究科長・郡司淳教授、工学研究科長・山田俊郎教授に、各研究科の特徴や抱負などを伺った。



工学研究科長

山田 俊郎 教授

最近、私よりもっと若い研究者が多くなっており、そういう若い教員や大学院生が研究に集中できる環境整備が、私に求められていることではないかと。勿論これまでも取り組んでいたことです。

と、また、本研究科は建設工学専攻と電子情報生命工学専攻の2専攻があり、分野横断的に広い領域で学ぶことができる、この二つが特徴です。

## 理系院生の研究環境の充実

今において、分からないことに對してどう立ち向かうかという能力そのものが重要で、特に工学関連の研究は、基礎学問の上に最新の技術の進歩があり、先人たちが築き上げた知識を理解し、より高度になった現

で、失敗を怖れず、新しいことを貪欲に吸収してください。また、いろいろな分野の先生から積極的に学んで、自分の引き出しを増やしてほしいですね。そしてもう一つ、自ら考えて研究し、それを発信するという一連の過

程を経験することで研究者としてのライセンスが持てるようになります。修士課程から博士後期課程も意識してスキルを身につけてほしいと思います。

## 第4回全日本大学生中国語スピーチコンテスト・第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト

人文学部2年 木谷美桜 日本全国大会で優秀賞



日本全国大会でスピーチする木谷美桜さん

第4回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道・東北ブロック予選が5月24日に東京で開催された。日本全国大会に出場し、見事優秀賞を受賞した。木谷美桜さんのコメント

第4回全日本大学生中国語スピーチコンテスト並びに第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト北海道・東北ブロック予選が5月24日に東京で開催された。日本全国大会に出場し、見事優秀賞を受賞した。木谷美桜さんのコメント

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

## 心理学を重視した経営学

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

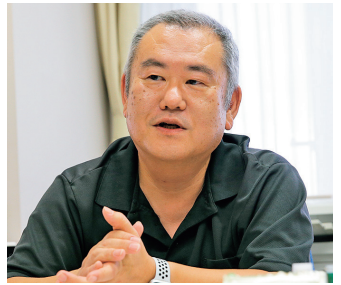
「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

## 分野横断的研究で人間に迫る

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」



経営学研究科長

石嶋 芳臣 教授

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

## 「ビジネス実践力講座」で

経営学部 佐藤大輔教授

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

「経営学研究科の特色をお聞かせください。」

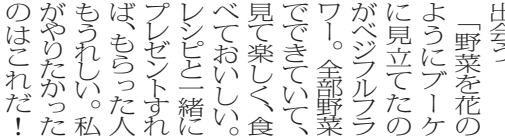


## 第24回

日本野菜ソムリエ協会認定  
野菜ソムリエプロ

木田 靖代 氏

経済学部経済学科 平成3年度卒・39期生



てほしいと語る。「単位のためにと義務で大学に行くのはもったいない。視野を狭くしないで、いろいろな人と関わって、様々な分野を学んでほしい。将来、それがどこで活かせるかわからないですから」

「フロアール」平成4年北海学園大学経済学部卒業。セイコマートなどの勤務を経て、平成23年に野菜ソムリエプロの資格を取得。現在、「VEG E HANA美へいばな」を主宰し、ベジブルフラワー体験講座を開催。野菜ソムリエコミュニティ札幌代表。ベジブルフラワーアワード・養成講座北海道校校長。令和4年、全国の野菜ソムリエ100人に選ばれる。

野菜の通販では、規格外で流通に乗せられないものを販売していた。ホームページには現場で学んだことやレシピを掲載していたが、もっとこれらの野菜に光を当てたかった。果物カゴのように、野菜も可愛くラッピングしてみてもどうだろう？ と考えていた木下さんは、ベジフルフラワー

大学時代は女子学生が一割ほどしかおらず、数少ない部活の中から勧誘されるがままにバドミントン部に所属した。短期間ながら、高校までとは違う広い人間関係を築いた。

「学園はすごく自由な校風だなと思いました。私は経済学科だったのに、当時は経営学科のゼミに入ることができました。自分が興味を持ったことを勉強するのはとてもプラスになりました。独立した時にも、この時に学んだ簿記が大いに役立ちました」

大学時代は女子学生が一割ほどしかおらず、数少ない部活の中から勧誘されるがままにバドミントン部に所属した。短期間ながら、高校までとは違う広い人間関係を築いた。

「学園はすごく自由な校風だなと思いました。」

と、東京で開催されていたベジフルフラワーアーティスト養成講座へ通い学びました。空間演出でオブジェや、花スタンドのような大きなものも作ることができます。北海道でも広めたくて、ベジフルフラワーの体験講座、ベジフルフラワーアーティスト養成講座（北海道校校長）を開催しています。毎日の生活の中で、野菜をもっと楽しく食べてもらえたらうれしいです」

バレーボール（女子）の試合

## 両校の記念撮影

## 第69回 定期戦成績

| 公式種目        | 試合結果      |             |             |
|-------------|-----------|-------------|-------------|
|             | 東 京 学 院 大 | 北 海 道 学 園 大 | 北 海 道 学 園 大 |
| アイスホッケー     | 28        | 0           |             |
| 弓道 (男子)     | 59        | 43          |             |
| 弓道 (女子)     | 29        | 29          |             |
| 剣道          | 4         | 3           |             |
| 硬式野球        | 3         | 2           |             |
| ゴルフ         | 3         | 0           |             |
| 柔道          | 5         | 1           |             |
| 準硬式野球       | 1         | 3           |             |
| 少林寺拳法       | 7         | 2           |             |
| 卓球 (男子)     | 7         | 0           |             |
| 軟式野球        | 2         | 7           |             |
| バスケットボール    | 95        | 77          |             |
| 羽球 (男子)     | 4         | 1           |             |
| バレーボール (男子) | 3         | 0           |             |
| バレーボール (女子) | 3         | 0           |             |
| ハンドボール      | 26        | 32          |             |
| ボクシング       | 2         | 0           |             |
| ラクロス (女子)   | 10        | 9           |             |
| 総合          | 15        | 3           |             |

※勝ち点2点、負け0点、引き分け1点  
※弓道(女子)は決中競射で東北勝利

| オープン種目    | 試合結果       |            |
|-----------|------------|------------|
|           | 東 北<br>学院大 | 北 海<br>学園大 |
| 硬式テニス（男子） | 6          | 3          |
| 羽球（女子）    | 5          | 0          |



## 少林寺拳法の試合

6月23・25日の3日間、第69回対東北学院大学総合定期戦が本学にて行われた。これは、体育を通じて両校の親睦を図るとともに、運動精神の昂揚と体育実技の向上を目的として毎年開催されている。

コロナの影響で4年ぶりの札幌開催となった今大会は天候に恵まれ、どの競技も熱戦が繰り広げられたが、健闘及ばず、東北学院大学が総合優勝をおさめた。

来年は仙台で開催予定。

人文学部日本文化学科 4 年

世界有数の  
 ヒグマ生息地  
 である知床に  
 は、「クマ活」  
 と題して、ク  
 マと人が市街  
 地で遭遇する  
 ことを防ぐた  
 めに草刈りや  
 ごみ拾いなど  
 をする活動が  
 ありま  
 す。その発案者、  
 高めても  
 続けます。

宗廣 みこと

「もんすけラボ」

私は、HBC（北海道放送）と北海学園大学がタッグを組んで北海道の課題について考える「もんすけラボ」という活動に参加しています。なかでも、ニュースでよく見る身近な課題から北海道をもっと知りたいと思い、専門家と共に市街地に出没するカメラマンと組んで、最初は私にできか不安で、での草刈り参加するじ立場の専門的に学門とを繋ぐ役割だと意識しました。

に関する活動に取  
ます。  
マの知識ゼロの  
とことがあるの  
たが、真駒内  
などの活動に  
ちに、私と同  
民とクマを専  
でいる人たち  
とが、自分の  
づことがで

## でクマと向き合う

村上晴花さんに市民代表と  
してインタビューをさせて  
いただき、記事にしてHB  
CのWEBマガジン  
「Stakke」に配信しま  
した。この日は、自  
分を介して専門家の知  
識や考えを市民に伝え  
ることができたという  
点で貴重な経験でし  
た。

また、知床で行われ

## 私の学び

私は、HBC（北海道放送）と北海学園大学がタッグを組んで北海道の課題について考える「もうひとつの道」を立ち上げた。最初はクマに関する活動に取り組んでいたが、真駒内での草刈りなどの活動に

合う  
村上晴花さんに市民代表としてインタビューをさせていただき、記事にしてHBCのWEBマガジン「Sitakke!」で配信した。このほか、自

同窓生の声

株式会社VOREAS  
代表取締役社長 いけ だ けん し ろう 池田 憲士郎

法学部法律学科  
平成21年9月卒・44期生

「株式会社VOREAS」の代表を務めるのが旭川出身の池田憲士郎さんだ。大学卒業後に東京で就職したのち、旭川に戻り父の会社に入り、その後、日本初のプロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」を立ち上げた。

子どもたちの未来のために  
ヴォレアス北海道ができること

昨季、悲願の昇格を果たし、今シーズンからバレーボールトップリーグの男子1部（V1）で戦うヴォレ



ヴォレアス北海道が運営する複合型飲食店  
「RAWLAW BY VOREAS」にて

「東京から旭川に帰ってきた時にものすごく寂しさというか、衰退していく雰囲気を実感したんです。父の会社は地域に密着した業種

プロチームとして誇りをもち、お客様を喜ばせるためにリスクを負ってでも積極的に攻めるというチームの姿勢は、池田さんの起業精神そのものだ。

「コロナの初期にはエンターテインメントの必要性が問われましたが、この仕事は多くの人を感動させることができます。会社のキーワードは『モアアクシヨ

しているのは、やっておけばよかったという後悔をしないことです。学生さんにも、とにかく積極的に行動してもらいたい。いろいろな経験をするのがのちに効いてくる。皆さんのように若い、これからの世代の人たちがより挑戦しすい、活躍しやすい場を作っていくことが自分の役割だと思っています」

たつたので、将来に不安を  
覚えました。地域経済のた  
めに何かしなくてはいいけ  
ない、子どもたちが不安な  
過ごせる社会をつくりたい  
との思いから、プロスポー  
ツで起業という選択になっ  
たんです。自分も中学生の  
ときからずっとバレーボー  
ルをやってきたので」

大学時代はバレーボール  
の思い出しかないという。  
「人のモチベーションを上  
げたり、チームで勝利を  
目指すという経験は他では

留学生の Taya と (写真左が筆者)

ました。普段は一人で登下校をしていた道もTayaと一緒になら一日で一番楽しい時間に思いました。

ホストファミリー体験記

英語が話せることで  
世界が広がることを実感  
経営学部経営情報学科3年  
おおよさお  
大屋 沙緒

私自身高校時代に留学経験があり、その際にお世話になったホストファミリーに本当の家族のように接してもらった思い出があります。今度は私がホストファミリーとして日本に来てくれた留学生に素敵な思い出を作ってもらいたいと思い、

今回の受け入れを希望しました。

私にとってカナダからの留学生のTayaと過ごした3週間は本当にあつという間でした。初日はお互いとても緊張しましたが、すぐに打ち解けることができました。札幌を案内したり、私のお気に入りの場所へ連れて行ったり、3週間で様々なことをしましたが、その中でも一番の思い出は、毎日の登下校です。登下校中はカナダや日本について、そしてお互いについて沢山のこ

なりました。また、留学生だけでなく、周りの協力学生からも刺激をもらう毎日はとても充実していました。英語を少しでも話せることで、一気に世界が広がることを身を持って体感し、これからも勉強を続けたいと強く感じました。また、今回このことを機に札幌の新たな魅力にも気づくことができ、普段自分たちが生活している空間を新たな視点で見直すことができました。Tayaが帰国した後も、私たちは毎日連絡を取り合っ



## キャリア支援センター就活情報

4年生  
就活事情

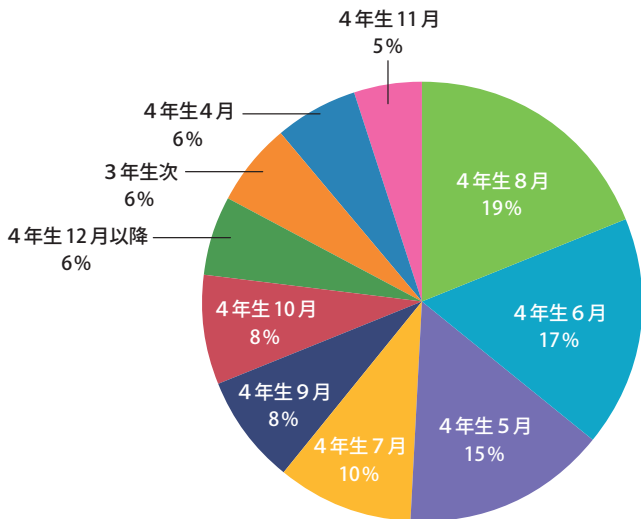
## 【求人動向について】

2023年7月1日現在、本学に求人票をご提出いただいている企業数は10,729社とされており、前年同期の8,788社よりも大幅に増加しております。新型コロナウイルス感染症の影響により、採用を抑制していた業界も観光業界を中心に採用を再開していることや、また大学の進学率が上昇しているに伴い、人材を高卒生から大卒生に求める傾向が強まっていること等から、この後も増えるのではないかと推測されます。8月に開催した学内合同企業説明会にも、多くの企業から参加の希望をいただいたことから、まだまだ多くの企業が採用活動を継続しており、この時期でも採用意欲は衰えていないことが窺えます。

## 【これからの就活について】

今後企業は大手就職ナビサイトではなく、ターゲットにしている学生がいる大学に直接求人を出してくるようになり、就活を継続中の方や、進路変更（公務員から民間へ等）を考えている方は、キャリア支援センターやミナトコムを情報源の一つとしていただきたいと思います。また、進路変更をすることによって、企業の選び方や志望動機の作成、面接の対策など自分だけで行うことが難しいということがありましたら、その時はぜひキャリア支援センターにご相談ください。他の意見を聞くことによって、考えがまとまることはよくありますので、悩みを一人で抱え込まないでください。

また大学としては、10月下旬頃に学内合同企業説明会（参加企業数未定）を企画して

決定就職先の内定取得時期  
(2023年3月卒業生アンケートより)3年生  
これからの就活

3年生のこの時期であれば、インターシップに既に参加し

ている方も多いと思います。今年度は多くの学生が積極的にガイダンスから取り組みをはじめ、働くことの意味や現在興味を持っている仕事について学ばれたのではないのでしょうか。これからの時期は企業が本格的に皆さんの採用を意識し始めますので、（民間就職希望であつても）筆記試験の対策、業界・企業研究、自己分析等を少しずつでも進めてください。

また今後は、**自分に必要な情報は何か**ということに注意を払ってください。多くの就職情報会社に登録をすれば多くの情報を入手できることは間違いありませんが、情報が多すぎてその取捨選択が難しくなる恐れがあります（多くの先輩がそれで失敗し、重要なメールを見逃すという実態があります）。それぞれの情報会社にはそれぞれの特徴（全国規模である／大手企業の情報に優れている／道内企業に

特化している等）がありますので、先ずは自己分析を行い、自分の就活の軸は何かを理解したうえで、どの情報会社から情報を得るのが自分にとって有益かを判断してください。特に「ミナトコム」はキャリア支援センターで運営しているサイトとなり、この登録をすることによって、大学に「就職登録」がされることとなります。この就職登録をしないと大学として就職の支援ができませんし、大学に届く求人も見ることもできません。大学で開催するセミナーやその申し込み、進路相談等の受け付けもミナトコムを通して行うこととなりますので、ぜひ登録をお願いいたします。

第2学期はキャリア支援センターでもガイダンスの実施をはじめ、多くの実践セミナーや官庁や企業を招いての就活イベント等を開催していきます。それらに参加することによって、最

新の情報を入手することが可能となり、日ごろ抱える就活に関する疑問を解消する機会となりますので、積極的に活用ください。周りの学生から影響を受け、自身のモチベーションを上げることも繋がります。

公務員を希望する方は、筆記試験対策を進める必要があります。大学の公務員講座や学外の予備校に通われている方はカリキュラムに沿って進めていただければ問題ありませんが、独学で進められている方は勉強の時間を確保し、自分の得意科目や不得意科目への取り組み方、得点源となる科目の把握、試験において時間配分をどうするか等、筆記試験対策について考え始めてください。また、一口に公務員といっても道市町村をはじめ、各官庁・警察等様々な職種があります。自分はこのような仕事・働き方に興味があるのかを考え、それぞれの違いを比較・把握するようにしてください。

## 【就職ガイダンスのお知らせ】

○民間志望者向け  
第3回就職ガイダンス  
日程／9月28・29日（対面）  
○公務員志望者向け  
第3回公務員ガイダンス  
日程／10月12・13日（対面）

2年生  
まずはガイダンスへ

民間志望者向けのガイダンスは3月に開催の予定となっておりますが、公務員志望者向けには公務員試験に関する情報の提供と公務員講座の案内を行うガイダンスを実施します。公務員試験を見据えて、早めに勉強に取り組みたい方はご参加ください。

○2年生公務員志望者向けガイダンス  
日程／10月5・6日（対面）

早川陽子氏 早川陽子設計室主宰  
5月24日 経済学部卒業生 小山英克氏 夫妻  
6月8日 中華人民共和国駐札幌総領事館教育領事 金海燕氏、同商務領事 謝城氏  
6月14日 カナダ・レスブリッジ大学学生交換事業引率教員 ベニールソン氏、同職員 ローレンバロウズ氏  
6月15日 北海道学生アメリカンフットボール連盟会長 吉田肇氏  
6月17日 北海学園特任教授 栗山英樹氏  
6月22日 丸善雄松堂株式会社札幌支店長 飯塚智之氏、同営業部長 横山慎氏、同社員 河村真理氏  
6月30日 一般社団法人天売島おらが島活性化会議専任教授 坂本学氏、同代表理事 齊藤暢氏  
7月25日 リクルート進学総研所長 小林浩氏、同グループマネージャー 鈴木義人氏、同チームリーダー 梅津直弥氏

## 学長室訪問



森本正夫先生の銅像

前理事長 森本正夫先生の銅像建立除幕式を挙行  
6月3日、前理事長・森本正夫先生の銅像建立除幕式を教育会館1階にて行なった。森本先生は、昭和30年に本学経済学部を卒業後、本学の教員となり、昭和51年理事長に就任。令和3年6月1日に逝去された。

計報  
元教養部教授 林昭男先生（95歳）が令和5年7月1日に逝去されました。謹んで哀悼をお祈り申し上げます。  
林昭男先生（経歴）  
昭和28年北海道大学文学部経済学科卒業、北海道大学大学院研究科（旧制特別研究科）昭和33年北海道大学助手、昭和36年本学経済学部講師、昭和37年同助教授、昭和44年同教授、昭和45年大学院経済学研究科教授、昭和48年小樽商科大学短期大学部教授、昭和52年本学教養部教授、昭和56年本学教養部教授、「経済学」を担当。平成9年3月退職。

## OPEN CAMPUS 2023



学内ツアーの様子（豊平）



オープニングイベントの様子（豊平）



工学部ショールームの様子（山鼻）

## 春・夏のオープンキャンパス

今年の開催は、春・夏・秋と年3回のオープンキャンパスの開催を計画しております。その第1回目となるイベントを6月18日（日）に豊平キャンパスと山鼻キャンパス、6月25日（日）には豊平キャンパス、第2回は8月11日（金・祝）と12日（土）に豊平キャンパスと山鼻キャンパスで実施しました。各日、申込制としました。皆さんの皆さまにご参加いただきました。文系学部（経済・経営・法・人文の4つの学部）がある豊平キャンパスでは、「オープンキャンパス」入試説明会、文系学部はじめの一步、学生TALK LIVE・学部別特別イベント、学内ツアーのほかに、学食体験、保護者向け説明会、サークルイベント、パネル展示、個別相談会等の内容で行いました。理系学部（工学部）のある山鼻キャンパスにおいては、「大学説明・入試説明、学食体験」のほか、学科ごとに「学科説明会、学内体験ツアー、ショールーム」を実施しました。当日は山鼻キャンパスと豊平キャンパス間の無料シャトルバスも運行しました。

今後は、秋のオープンキャンパスとして、10月1日（日）は春・夏同様学内ツアーの内容で、9月30日（土）は工学部（夜間部）に特化した内容で行われる予定ですが、それぞれ申込みが9月12日（火）から始まります。

## ミニオープンキャンパス

ミニオープンキャンパスは、道内6都市にて開催しており、日ごろの疑問・質問を各都市で解消できるものとして行なう本学単独のイベントです。今年度の日程は、7月22日（土）23日（日）、29日（土）、30日（日）の4日間、計6回開催しました。内容は、「大学／道内6都市にて開催しており、日ごろの疑問・質問を各都市で解消できるものとして行なう本学単独のイベントです。今年度の日程は、7月22日（土）23日（日）、29日（土）、30日（日）の4日間、計6回開催しました。内容は、「大学／



個別相談の様子

【開催会場】  
7月22日（土）北見／北見市民会館、釧路／まなぼと幣舞、7月23日（日）旭川／旭川北洋ビル、帯広／とかちプラザ、7月30日（土）函館／函館市民会館、7月31日（日）室蘭／室蘭市生涯学習センター・きらん



図書館で職業体験を行った阿部真歩さん（右）

図書館で職業体験を行った阿部真歩さん（右）  
返却、配本などを体験した。最後に全体のお礼と質疑応答を行い、2日間の職業体験を無事に終えた。

札幌視覚支援学校生 図書館で職業体験  
6月27・28日の2日間、北海道札幌視覚支援学校高等部普通科の2年生・阿部真歩さんが、本学附属図書館で職業体験を行った。一日目はオリエンテーションで大学図書館の役割や仕事内容などを確認し、図書館を見学。アクティブ・エ